

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

事業課題名	東アジアジュニアワークショップ
代表者名	安里和晃
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は国際連携大学である台湾大学とソウル大学の、主に社会学部の学部生を対象とした研究報告ワークショップと、並行して実施するフィールドリサーチから構成される事業である。本学と台湾大学では、これをそれぞれの大学の授業として位置づけており、単位も認定している。海外の複数大学との国際合同授業は、日本の大学ではほとんど例のない新しい試みであるが、京都大学では特殊講義として事前準備のための授業も併せて開講している。事前授業では3か国の比較研究のサーベイを通じて基礎理解を深め、各自の関心に従ってリサーチをおこなう。さらに、これまでの経験から英語でのプレゼンテーション能力を向上させる必要があるため、発表演習を実施する。</p> <p>ワークショップでは、同世代の学生を前にして英語で自分の研究成果を発表し、英語で質疑応答を受け、各国の研究者からも英語でコメントを受けるため、報告者は大きな成長を遂げる。国際会議での報告のみならず、3カ国の学生・教員が共同して実施するフィールドワークでは各国の社会学的視点に基づくリサーチがおこなわれるため、より深い社会への洞察力が涵養される。なお本事業は、グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、2009年から年に1度開催してきたもので、2013年からその活動を KUASU が引き継いでいる。今年度の開催はソウル大学である。</p>

成果の概要
(800 字程度)

本事業は、授業とワークショップから構成される。2017年度は8月14日から20日にかけてソウルに滞在し、3日間のフィールドリサーチと2日間のワークショップに参加した。ワークショップはソウル大学で開催した。京都大学からの参加者は7名で大学院生が3名、学部学生が4名であった。また、教員は3名が参加した。

従来通り、授業では3か国の比較研究のサーベイを通じて、台湾や韓国社会の基礎理解を深めた。また、ワークショップでの報告に向け、各自が問題を設定し、文献サーベイを実施し、プレゼンテーション能力を向上させるため、発表演習を行った。毎年のことだが、発表演習はソウル滞在の報告前日まで続いた。

最初の3日間はフィールドリサーチが設定された。社会運動、コミュニティ、平和などに関連するリサーチが設定された。ホスト校の調整により充実したプログラムとなった。

ワークショップについて、社会学以外からの参加や留学生の参加もあった。京都大学からの報告は、ホームレス問題、LGBTの国際比較、失業について、移民問題、エスノグラフィ、日本の右傾化などが取り上げられた。参加者は本ワークショップ参加のために多くの時間を割いて英語でのプレゼンを完成させているため、大きな成果があった。と同時に、毎年出てくる参加者からの感想だが、ソウルや台湾のレベルの高さや、英語での表現力、社会問題に関する意識の高さについての刺激を受けている。なお来年度は国立台湾大学での開催となる。